



かながわ湘南西

障福ナビだより

平成 30 年 1 月 31 日 第 93 号

社会福祉法人 常成福祉会 丹沢自律生活センター総合相談室

〒259-1302 神奈川県秦野市菩提 1711-2 ☎ 0463-71-5872 Fax 0463-75-3377 e-mail: soudan@jousei.or.jp

平成 29 年度圏域重症心身障害児者及び医療的ケアを 必要とする方を支援する医療機関懇談会

12/7
於 神奈川病院

今年度の医療機関懇談会は、新たに圏域内の 2 つの病院にご参加いただき、合計で 5 つの病院、2 つの訪問看護ステーション、2 つの広域専門機関、あんしんネット事業所での、医療的ケアを必要とする方への支援状況を共有し、レスパイト入院に関して意見・情報を交換しました。数は多くはないものの医療的ケアを必要としている方のレスパイト入院の対応実績がある病院、地域にレスパイト先が少ないことに課題感を持ち将来的なレスパイト入院の開始に向けて準備を進めている病院や、昨年レスパイト入院を開始して実績を少しずつ積み重ねている病院などがあり、事務局としては大変心強く感じました。圏域内の複数の病院をレスパイトで利用されている方がいる可能性が確認されたことから、ご本人・ご家族の了解をいただきながら、病院間の連携、ひいては、障害福祉サービス提供事象所との連携により、さらに充実したレスパイトの環境が整うことが期待されます。



平成 29 年度圏域重症心身障害児者及び医療的ケアを 必要とする方の支援ネットワーク 事業所情報交換会

1/12
於 ソーレ平塚

今年度で 5 回目となる事業所情報交換会では、実践報告として、障害児・者・家族サポート事業所スプラウト 管理者・看護師 佐藤大輔 氏から、『スプラウトの利用状況とご家族の意識調査～医療的ケア児者を受け入れるにあたっての課題～』と題してご発表いただきました。事業所で実施したアンケート調査結果から、とくに医療的ケアのある利用者さん（ご家族）の活動への興味関心が高いと推測されたそうです。現在の医療的ケア提供体制は看護師中心となっており、サービスは看護師なしでは成り立たないと考えているとのお話がありました。また、安心して看護師が働ける環境づくりに関連して、利用に際して医師の指示書を用意することを標準化していること、指示書があることのメリットや今後の課題（文書料が発生する方としない方がいること、更新のタイミング、記載事項以外の行為への対応）について、ご説明いただきました。今後医療的ケアを必要とする利用者さんが増えていくことが予想される中で、看護師が安心して医療的ケアを提供できる環境が、利用者さんやご家族の安心につながると考えられ、様々な準備をして臨みたいとお話いただきました。





続く、意見交換会では、『安心してサービスを提供するために』をテーマに6つのグループに分かれて話し合い、出た意見を全体で共有しています。以下、その一部をご紹介します。

☆複数の事業所を利用している方もいるので、どこでも安心してサービスが受けられるように、個人情報取り扱いに十分配慮しながら、情報共有できる場が欲しい。

☆職員が安心して働けることが必要。個人のやりがいに頼ってはいけない。

☆看護師が現場に複数いることが安心感につながる。看護師一人では心配を抱えながら仕事することになり、看護師が休むと利用者さんも休まざるを得ない。

☆指示書の作成にかかる費用がまちまちで、早急に対策を講じてほしい。

☆病院のレスパイトも含めて利用可能な施設が増えているというが、病院や地域の事業所などそれぞれの機関同士の役割分担がはっきり見えてくると良い。

終了後のアンケートからは、実践報告、意見交換会での他事業所の支援状況や制度など、事業運営に活かせる具体的な情報に対する期待を沢山寄せていただきました。今後もいただいたご意見を参考に運営してまいりますので、ご協力よろしくお願いいたします。

湘南西部圏域内での研修の共有状況報告



前号でお伝えした、昨年10月末から始まった圏域内市町協議会が開催する研修の共有状況ですが、この3ヶ月ほどで、合計10の特色ある研修が圏域内で共有され、1月末現在で既に6つの研修が終了しています。参加者の1割から2割程度が圏域内他市町からの参加者となった研修もいくつかあります。

その内の一つで、この1月20日(土)に開催された、平塚市障がい者自立支援協議会精神分科会主催 精神障がいのある方のご自宅や地域での生活支援を考える連絡会「精神障がいのある方の食生活」(講師：国立国際医療研究センター 国府台病院 臨床栄養管理部栄養管理室 副栄養管理室長 阿部裕二氏)について、ご紹介します。

講義では、精神科において栄養が注目され様々な研究が進んでいるとのことで、統合失調症や気分障害との関連性、栄養指導による効果などをご説明いただいた後、精神科の訪問栄養指導が訪問看護とのチームで行われている最近の事例を紹介いただきました。事前に募った支援者側が栄養指導の難しさを感じる事例に対して講師からは、体重管理に拘わってご本人を追い込むようなことをせず、健康管理に焦点を置いてご本人の努力を認めること / ご本人の嗜好、生活習慣や傾向などへの丁寧なアセスメントから健康管理に繋がるであろう有効な要素をみつけてそこにアプローチすること、などの助言があり、多くの受講生が真剣にメモをとっていました。

圏域内市町が開催する研修はどれも大変興味深い実践的なテーマとなっていますので、圏域内事業所の方々は、奮ってご参加ください。ご不明な点は、事務局までお問い合わせください。

【あとがき】2月9日から平昌オリンピック、3月9日から平昌パラリンピックが開催されます。先日、日本パラリンピック委員会から、5競技に出場する日本代表選手33人が発表されました。大日方選手団長は、前回大会の6個を超えるメダルを目標に掲げています。熱い闘いに日本から声援を送りたいですね。